

 <p>おきなわ 私保連だより</p>	<p>No. 131 2017年 (平成29年) 1月26日</p>	<p>発行所 一般社団法人 沖縄県私立保育園連盟 〒903-0804 那霸市首里石嶺町4-373-1 TEL. 098(887)1270 発行人：仲地 賢 編集：広報部</p>
---	---	--



初めてのムーチー
杉の子保育園
(中部北)



新年のごあいさつ 会長	2P	沖縄の保育を考える研修会	9P
新年のごあいさつ 子ども生活福祉部長	3P	各部ブロック活動報告	10・11P
新年のごあいさつ 副会長	4P	全保連青年会議おきなわ大会	12P
臨時総会・研修会・役員新体制	5P	キリスト短期大学との連絡会	13P
沖私保連新年会	6P	子どものつぶやき	14P
平成28年度受賞者紹介	7P	沖私保連の動き	14P
初任保育園長研修会	8P	編集後記	15P
予算対策部 活動報告	8P	広告	15・16P

新年のごあいさつ



一般社団法人沖縄県私立保育園連盟
会長 仲地 賢

本連盟会員園の皆様、そして日頃より沖縄県内の保育事業のため、志を共にして頂いています関係者の皆様、あけましておめでとうございます。快晴に恵まれ、比較的穏やかなお正月でしたが、皆様の家庭や職場ではどのような今年の抱負、あるいは目標をたてられたでしょうか。

穏やかというのは、天気に限らず何事においても最良の状態をいうのかもしれません。平穀無事に一日が送れますようにと祈る毎日で一年を過ごしてきましたが、そうとばかりいかないのも世の常でしょうか。昨年4月の熊本地震では、我々の仲間の保育園が被災され、大変厳しい状況に立たされました。東日本大震災から5年が経過していましたが、翻って我が沖縄県ではそのような緊急事態に対処し得るのか、早急に対策を講じる必要があると思います。

また、天災ではありませんが、保育所保育の価値を低く見るような風潮は、見過ごす訳にはいきません。子どもの命と育ちを担保する保育士の専門性を軽んじるようなことがあってはなりません。

“保育こそ手厚く”なければいけないと思います。保育の問題は多岐にわたり、解決は容易ではないかもしれません、我々沖私保連が昨年、創立50周年を迎え、その足跡をまとめる中で、幾多の困難を乗り越えてきた先達の意志を受け継ぎ、ねばり強くこれらの難問に立ち向かって行くことを、全会員の総意で決意していこうではありませんか。

結びに、皆様のご健康とご多幸を心から祈念し、年頭のあいさつといたします。



新年のごあいさつ



沖縄県子ども生活福祉部
部長 金城 弘昌

沖縄県私立保育園連盟会員の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。年頭にあたり、新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様には、日頃より、本県の子ども達の健やかな成長のため、児童福祉の向上に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年沖縄県は、「黄金っ子応援プラン」に基づき、平成29年度末まで約1万8千人の保育の量の拡大及び約2千3百人の保育士確保に向け、着実に取り組みを強化した一年であり、平成28年3月時点では約4千人の保育定員の確保と約800名の保育士を確保したところであります。

また、国は「ニッポン一億総活躍プラン」において、「夢をつむぐ子育て支援」のため、安心して子供を産み育てることができる社会を創ることを掲げ、平成29年度末までの保育の受け皿整備を40万人から50万人分に上積みし、新たな子育て支援事業の創設や保育士の待遇改善、保育士の確保・育成に総合的に取り組むなど、待機児童解消に向け受け皿の拡大を促進しています。

県としましては、国の取組や各種施策を活用しながら、引き続き、保育の受け皿整備と保育士の確保を柱とし、待機児童解消支援基金や沖縄振興特別推進交付金等を活用した各種施策を市町村と連携して行い、待機児童の解消に積極的に取り組んでまいります。

特に保育士の確保や離職防止のための施策として、保育士修学資金の貸付、潜在保育士の再就職準備金の支援、保育士の正規雇用化や年休取得及び産休取得に対する支援のほか、平成28年度は公定価格改定に伴う待遇改善に加え、県独自に保育士給与のベースアップを図る事業を新たに実施しております。さらに、平成29年4月から宮古・八重山地域で保育士試験を実施し、保育士確保の機会を拡大することとしております。

これらの取り組みについては、貴連盟や市町村との連携が重要であり、ご協力を得ながら、取り組みを加速させてまいります。

本年は、待機児童解消に向け非常に重要な一年となります。そのためにも県、市町村と貴連盟をはじめとした保育関係団体の皆様がこれまで以上に緊密に連携し、保育現場に求められている支援や保育制度の在り方について、認識を共有していくことが重要であります。

沖縄県私立保育園連盟におかれましては、会員相互の結束のもと、現場が直面する課題等について、様々な側面からの支援を行うことにより、本県における保育の更なる質の向上に御高配いただきますようお願い申し上げます。

結びに、沖縄県私立保育園連盟のますますの御発展並びに関係各位の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、年頭の御挨拶といたします。

新年のごあいさつ

一般社団法人 沖縄県私立保育園連盟
副会長 長嶺 久美子(港川保育園)

“新年ぬ年に 炭と昆布飾てい 心から姿 若くなゆき”

昨年、12月の臨時総会で新たに3名の理事に加わっていただき沖私保連も仲地会長をはじめとする新体制のもとのスタートとなりました。今年は酉年、子どもたちにとっても、会員の皆様におきましても色とりどりの幸せが訪れる一年でありますよう願っています。

さて、一方で沖縄の各地で起きている、保育の問題は新年早々おめでたい気持ちにはなれない状況が続いています。保育所整備のことや、公立保育所全廃のこと、保育士不足も、今後の子どもの育ちへの影響が懸念されます。

そんな日々子どもやその家族と接している保育現場の感覚と社会との温度差をどうやって埋めていけば良いのか考えさせられています。

12月18日に行われた沖縄の保育を考えるシンポジウムにおいて、講演をしていただいた猪熊弘子先生の著書「子育てという政治」の中に「大人になってからの1年間と、2歳の子どもの1年間とではその価値も、意味も重みも全く違う。そして0歳から6歳の時期をやり直すことは二度と出来ない。その時期に子どもがどのように育つか、そこでどういった価値観を持つかはその子の人生にとって非常に重要なものである・・」という一文があります。このことは、保育関係者だけの問題にとどまらず、今後の沖縄の子どもたちをどう育てるかという沖縄の社会問題でもあるからこそ、多くの参加を呼びかけました。

今起きている子育て家庭の抱える貧困や、虐待、発達支援の必要な時期に支援が届かないケース、またはその狭間にいる家庭等、保育園に入所して始めて関係機関がつながり出すケースは、いくつもあります。この事は保育園だけで解決できる問題ではなく、新たな社会問題に変化していく不安や危機感を感じています。日々、子どもたちの生活に接している私たちが、子どもの立場から発信しなければと思います。

保育の課題はまだまだたくさんありますが、会員の皆様と一緒に課題解決に向かって私保連のあゆみを止めることなく進んで行きたいと心新たにしています。

一般社団法人 沖縄県私立保育園連盟
副会長 上原 東(すこやか保育園)

あけましておめでとうございます。

昨年暮れの緊急総会を持ちまして副会長へ就任致しました、すこやか保育園(うるま市)上原東です。これまで沖縄県私立保育園連盟役員として4期8年務めさせていただきました。役員を離れて2年半が経過しておりますが、役員としての感覚が取り戻せるのか心配で、副会長としての大役が務まるのかとても不安があります。この緊急事態に私が必要とされるならば、全役員、全会員とともに仲地賢会長を支え、一般社団法人沖縄県私立保育園連盟の発展に力を尽くしたいと決意致しました。仲地会長はじめ会員の期待に応えられるかどうか心配ではありますが頑張りますので、ご支援、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

臨時総会・研修会

平成28年12月26日にゆいほーるにて第61回一般社団法人沖縄県私立保育園連盟臨時総会・研修会が行われました。

仲地賢新会長の挨拶の中で、「沖縄の保育を取り巻く環境、子どもの最善の利益が保証されているのか検証されるべき、沖縄の平和についても考えていかなければならない」とお話がありました、さらに「心を一つにし、まさに祈る思いで大きな壁に立ち向かっていかなければなりません。『保育こそ手厚く』を訴えて行きたいと思います」とご挨拶がありました。

又、長嶺久美子副会長より、當間左知子先生の会長辞任に伴い、先日開かれた理事会にて仲地賢先生が会長に選任されたこと、又、新しい理事について理事選任委員会を発足、会長を含めた選任委員会にて理事候補の選考を行った経緯の説明がなされました。



当会、加盟園241園中、出席者が76名、委任状が92名で総会が成立し、第一号議案の中で、理事の選任(案)について審議がなされ、異議なく承認されました。

総会後の研修では、顧問の玉城善徳先生より『組織の果たす役割と存在意義』と題して、講演をして頂きました。

仲地会長 研修の中で、玉城顧問は、「私保連をはじめとするこのような組織の果たす役割というのはとても大事。みんなが力を合わせてきたからこそ保育体制が守れた。我々は子どもの代弁者である。子どもの最善の利益のためにやっているのか胸に手をあてて考えてみよう。我々は制度を守るために(24条1項の公の責任)一定の責任を果たしてきたのではないか。我々は後押しをしていかなければならない。私保連に結集し、子どもたちがよりよい生活ができる、お父さん、お母さんが安心して仕事ができるようにすることが、私達、保育事業を担当しているものとしての喜びである。積極的に行政に意見を言っていくことも大事。このためにも私保連の新しい役員体制に協力してください。」とお話がありました。(広報部:嘉陽)



顧問 玉城善徳先生

平成28年度役員新体制

理事

1	会長	仲地 賢	ドリーム保育園	北部
2	副会長	長嶺 久美子	港川保育園	南部
3	副会長	上原 東	すこやか保育園	中部北
4	理事(総務部長)	仲間 明	第二ぐしかみ保育園	南部
5	理事(総務事務局担当)	當山 選也	小羊保育園	南部
6	理事(研修部長)	上原 直	おおな愛児保育園	那覇
7	理事(予対部長)	田仲 雄二	西原保育園	中部南
8	理事(事業部長)	岸本 恵美子	聖ルカ保育園	北部
9	理事(広報部長)	嘉陽 理子	たんぽぽ保育園	中部北
10	理事(北部ブロック長)	末吉 幸博	やまびこ久辺保育園	北部
11	理事(中部北ブロック長)	喜屋武 恵子	かりゆし保育園	中部北
12	理事(中部南ブロック長)	又吉 剛	広栄保育園	中部南
13	理事(那覇ブロック長)	ウインフィールド ひろみ	グッピー保育園	那覇
14	理事(南部ブロック長)	屋良 景俊	めだか保育園	南部
15	理事(先島ブロック長)	與那覇 高枝	おおぞら南保育園	先島

幹事

1	幹事	三木 元子	あじや保育園	那覇
2	幹事	渡真利 望	コスマス保育園	南部
3	幹事	仲村 晴美	登川みらい保育園	中部北

顧問

顧問	玉城 善徳	室川保育園	中部北
----	-------	-------	-----

沖縄県私立保育連盟 新年会

平成29年1月10日(火)ホテルロイヤルオリオンに於いて、新年会が開催されました。

来賓の方々、法人役員、会員等140名が一堂に会して交流を深める事ができました。

長嶺久美子副会長の挨拶に続き、来賓の沖縄県子ども生活福祉部・部長の金城弘昌氏、那覇市こども未来部・部長の浦崎修氏のご挨拶を賜りました。

ときわ保育園園長大城栄子先生(玉城流師範)の艶やかな衣装での「かぎやで風」で幕開けし、沖縄県社会福祉協議会常務理事の嘉陽孝治氏の乾杯の音頭「カリー」の一声の後、会場が歓談で賑わいました。

第二部では、今年度受賞された方々への花束贈呈と受賞者を代表して、久場文子先生(伊差川保育園園長)から、受賞した喜びについてのご挨拶がありました。

会員の屋良景俊氏(めだか保育園園長)と瀬底正氏による「ケイティミニライブ」やbingoゲーム等も行われ、笑いと満面の笑顔一杯の和やかな雰囲気の中で新年がスタートしました。

各関係機関の方々の祝辞の中に、保育制度改革による子育て環境の整備のためには、県・市町村の連携の重要性にも触れられ、冒頭長嶺久美子副会長は「今年は、保育こそ手厚くをモットーに沖縄の子どもたちが地域の宝として愛され、育ちを支えていけるよう、会員相互の交流を深めていきたい。」と挨拶し、関係機関との情報交換の場、会員同士の和やかな親睦の場として、沖縄の保育に関する思いを共有しながら、29年のスタートを切ることが出来ました。(広報部:親泊、与那覇、大城)



沖縄県こども生活福祉部
金城弘昌 氏



那覇市こどもみらい部
浦崎 秀 氏



沖縄県社会福祉協議会
嘉陽孝治 氏



玉城流師範 大城栄子氏



受賞者を代表して 久場文子氏



ケイティミニライブ



沖縄県私立保育園連盟
長嶺久美子副会長 上原 東副会長



平成28年度 受賞者紹介

○厚生労働大臣表彰



久場文子
(伊差川保育園)

○全私保連表彰保育功労賞



當間左知子
(パンダ保育園)



仲地 賢
(ドリーム保育園)



渡真利望
(コスモス保育園)

○全国保育協議会会长表彰



又吉剛
(広栄保育園)



當間美千代
(わらべ保育園)

初任保育園長研修会

平成28年度 初任園長研修会が11月21日(月)に県総合福祉センターにて、経験年数5年未満の園長、副園長39人が参加、行われました。

研修I、「社会福祉法人としての役割や責務」と題した當間会長の講演では、県福祉保健部からの「社会福祉法人の責務について」という資料を用いて、社会福祉制度や保育制度、措置制度について説明がありました。

その中で、“社会福祉法人は社会福祉事業を社会から負託されている公共の財産であり、認可されたら「私物」ではない。” “社会福祉法人が「公共」を担っている事を忘れるならば、いつか社会から見放される。”という文言は、初任園長に限らず私たちが真摯に受け止めなければならない言葉だと感じました。

研修IIでは、参加者を8グループに分け、ベテラン園長がファシリテーターとして入ってのグループディスカッションが行われました。討議の柱である「保育園における課題」、「資質向上のための取り組み」について討議が行われていました。4月に認可された園の初任園長は規則や職員間での共通理解をどのようにして行っているのか。また、2代目園長は園の先代園長とのギャップや園のカラーをどのように引き継いでいけば良いのかなど、其々の悩みを聞きながら保育士の確保や土曜保育についてなど共通する部分を多く感じているようでした。

最後のまとめでは、「怖がらずにやってみよう。」「職員に対してまず受容して、感謝を伝えよう。」という前向きな言葉が多くあがっていました。また、「今日、相談出来るベテラン園長とつながることが出来て良かった。」という感想が、この研修の大きな意義として示されたように感じました。

(広報部:川武)



予算対策部 活動報告

平成28年度 要望署名・カンパについて(ご報告)

一般社団法人 沖縄県私立保育園連盟

予算対策部会 部長 田仲 雄二

今年度も「子どもの育ちと子育てを保障し保育をよりよくする署名・カンパ」活動を行いました。予対部で集計を行い最終的には41,068名の署名と3,184,092円のカンパをご協力いただきました。全国では956,715名の署名を集め平成28年12月14日参議院会館にて行われた全私保連予算対策委員会にて、尾辻秀久先生(参議院議員)を通じて内閣総理大臣宛提出いたしました。皆さまからのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。署名の要望事項内容は、全国各ブロック予対委員会にて精査し各地方の意見を反映させる方式をとり幅広い地域の保育実態を国へ届け保育制度が充実するよう内容を検討しています。

予算対策カンパの使途につきまして少し近年の保育制度の動向を整理しますと平成27年度より子ども・子育て支援新制度が施行されていますが、先の民主党政権下で示された“総合こども園法”では、市町村による保育実施義務を規定する児童福祉法24条1項(以下24条1項)を削除しすべての施設を保護者との直接契約にし、規制を緩和した類型の施設を増すことで待機児童解消する目的がありました。直接契約にすることは市場化へと繋がり公的責任が後退し子どもの保育を受ける権利が保障されない状況が危惧されていました。その動きに対し、九州保育三団体協議会を中心とした組織が、予算対策活動を通じ、東京日比谷公会堂にて保革を超えた政党を代表する国会議員の先生方を含めた大集会を開き、公的責任の重要性を訴え新制度においても我々認可保育所においては、24条1項の市町村の保育実施義務は堅持されています。

このような運動を展開するためには、沖私保連会員を代表する会長・副会長をはじめ役員が全国・九州の先生方と最新の国の動向と、その問題点を共有するため研修会や会議に参加し、組織で幾度となく国への要望・請願活動などの予算対策活動を強化していくことが不可欠でしたし、今後も必要となります。これまで以上に24条1項における市町村の保育実施義務が保障されている認可保育所として子どもの権利保障を共に訴えるためご理解ご協力宜しくお願ひいたします。

沖縄の保育を考える研修会

～児童福祉としての保育を守るために私たちがしなければならないこと～

平成28年12月18日（日）、沖縄キリスト教短期大学にて、私保連主催の「沖縄の保育を考える研修会～児童福祉としての保育を守るために私たちがしなければならないこと～」と題した研修会が開催され、ジャーナリストの猪熊弘子氏を講師にお招きし、子どもの権利としての保育の在り方についてご講演くださいました。



猪熊 弘子氏

研修会には参加者や行政担当者など約330名、そのほか各市議会議員8名の方々も見えられ、真剣に耳を傾けていました。研修では、新制度がスタートし待機児童問題や保育の地域格差など様々な課題がある中で、政府が緊急対策として、配置基準などの規制緩和を進めていることに疑問を投げかけ、海外の保育制度と比較しながら日本の制度の問題点についてお話し下さいました。また企業参入により、企業倒産による保育園閉鎖や保育園での死亡事故などの事例を示し、待機児童問題のみがクローズアップされ箱ばかりを増やす政策に対し、「子どもの命を預かる」という最も重要な観点から考えることが必要だとし、預かってもらえばどこでも良いという考え方ではなく、安心して預けられることが大切だとし、保護者に諦めないでほしいと強く呼びかけておられました。

また保育の質についても言及し、保育そのものの「プロセスの質」、設備環境や配置基準などの「構造の質」、また保育者の賃金や待遇などの「労働環境の質」の3つの条件が重要であるとし、これらをバランスよく高めることが保育の質につながるとのお話しでした。



また日本では「親が子どもを預ける権利」について重視しがちだが、子どもを主体に考え「子どもが保育を受ける権利」が大切だとし、先進国の中で日本が最も子どもの権利について保障できていないと指摘して下さいました。

子どもの命を守り子ども一人ひとりを見つめ理解する、そんな重要だけれど「あたり前のことと並外れた愛を持っておこないなさい」というマザー・テレサの言葉が引用され、私達はすべての子どもに必要な愛情と学びを与えられているか、今一度考えるきっかけとなりました。

シンポジウムでは、沖縄女子短期大学の平田美紀氏をコーディネーターに、那覇市保護者連合会会長の備瀬知晶氏、沖縄キリスト教短期大学准教授の照屋建太氏、八重瀬町園長会会长の川武啓介氏も参加し、それぞれの立場から制度の問題点や保育士不足の課題について、また昨今の公立保育所全廃の動きについても意見交換し、児童福祉としての保育を今後どのように保障していくべきか、深く学び合う場となりました。

(広報部:森田、前濱)



各部ブロック活動報告

★北部ブロック

ブロック長 末吉 幸博

北部にも寒さと同時に様々な思いの「やんばるの風」が吹いております。

去る12月3日、平成28年度「北部ブロック園内研究発表会」が開催され、聖ルカ保育園、あい保育園、エレミヤ保育園の3ヶ園による、日々の保育実践の発表が行われました。各園共に独自性ある保育内容に溢れ、研修参加者188名が真剣な眼差しで共に学び合いました。助言者には沖縄女子短期大学の柳生崇志先生をお招きし、発表園への講評や参加者からの質疑応答に対してのご助言を頂きました。柳生先生のご助言の中で印象的な言葉「子ども子育て支援の制度が改正され、保育制度も多様化する中だからこそ、子どもも保護者も、私たち保育士（保育者）も共に育ち合い、学び合っていく関係性が大切だと思います。」との助言には、私たちの保育で「変わらなければならないモノ」そして「変わってはいけないモノ（守る）」があるとのメッセージが込められており、共に学び育み合う「北部ブロック園内研究発表会」となったのではないかと思います。

また、北部ブロック園長研修会では2つの大きな柱を立て実施しました。その柱の一つが、今回の改正社会福祉法に伴いすべての社会福祉法人が経営組織を見直し、定款の変更、評議員の選任等についての情報交換会。もう一つの柱は、名護やんばるの地域資源を活かした「わんさか大浦パークマングローブロード」視察です。普段目にしている自然も「見て、触れて、感じて」を意識することで、改めて大自然の良さ、やんばるの自然の豊かさを五感で味わう機会と同時に、参加者がお互いを気遣い、声かけあい、雨が降ると傘を持って遠くから駆け付けてくれたりと園長先生の想い合う姿が見られました。やんばるの自然が育む「人の心」こそ、北部ブロックの大きな力だと感じております。

大浦湾パークの散策中に心に響いた先輩の言葉「私たちは、このやんばるの自然を守っていかないといけない。子どもたちの幸せ世の中の為にも!」を是非伝えたいです。



園内研究発表会



シーカーサー農家視察



大浦湾視察

★中部北ブロック ブロック長 喜屋武 恵子

中部北ブロックは61ヶ園が加盟しており5月、8月、10月、12月に定例園長会を開催致しました。又、園長研修として沖縄県子ども子育て支援課に講師を依頼し「社会福祉法の改正について」を学びました。その他に職員交流ボーリング大会、園長交流、園内研究発表会が行われました。

今年度の発表園は うるま市 のびのび保育園『組織の一員としての在り方』、沖縄市 さかえ保育園『なぜ絵本がいいのか』、ことぶき保育園『朝の園内放送を通して学ぶこと』の3園が発表し、キリスト教短期大学准教授大城りえ先生に助言を頂きました。

中部北ブロックは2市1町1村からなり、園長会では市町村からの報告により情報交換ができるのは良い機会となっています。地域が広範囲の為、会場設定にも頭を悩ませる所ですが、出来るだけたくさんの会員に参加していただけるよう努めています。改正社会福祉法の施行も目前に迫り何かと多忙な日々になりますが、会員の皆様、健康に気をつけ子ども達のすこやかな成長の為、力を合わせて頑張っていきましょう。

★中部南ブロック

ブロック長 又吉 剛

中部南ブロックは、偶数月の第2水曜日にブロック園長会を開催しています。中部南ブロックは、会員のお一人お一人が積極的に発言し、行動する前向きな園長先生ばかりなので、会を運営する側が、困難だろうと思える議題も、後押ししてもらいながら、上から引っ張ってもらっているながら、助けていただいている。本当にありがとうございます。中部南ブロック報告として、今年度は、6月25日に、ブロック園内研究発表会を開催し、「家庭生活のアンケート」さうんど保育園、「一人一人の自主性を育む保育を目指して」ピノキオ保育所の発表があり、沖縄女子短期大学の平田美紀氏から、ご助言をいただきました。

9月10日に、「平成28年度日保協中部地区・私保連中部南ブロック職員合同研修会」を日保協中部地区園長会と共に開催しました。研修I「脳神経学に基づく成長を促す関わり方について」、研修II「信頼を得るための保護者への関わり方について」という内容で、一般社団法人親学推進協会理事の杉本哲也氏にご講義いただきました。受講した保育士からは、「園児が寝たまま登園してきたり、保育室でダラダラしていたり、脳がまだ眠っている状態があるので、今回の研修で聞いたように、セロトニンが活発になるよう、深呼吸、リズム運動等、セロトニン神経鍛錬法をたくさん取り入れていきたいと思った。そして、園で何気なくやっていたことを明日から改めて意識して保育していくたいと思った。」という感想がありました。

来年度も子どもの最善の利益のために、活動していきたいと思います。

★那覇ブロック

ブロック長 ウィンフィールド ひろみ

平成28年度那覇ブロックは、久米島3か園を含む51か園の大所帯です。去る7月23日は園内研究発表会でした。いちごえ保育園は、「わたしたちのくらすまち～いちごえ保育園周辺のさんぽ道～」をテーマに園児、保護者、職員が一体となり、一緒に楽しめる取り組みとして外遊びを多く取り入れ、周辺の生活環境や自然環境に触れながら五感を働かせる保育を取り入れて「マップづくり」の取り組みについて発表し、キリスト教短期大学非常勤カウンセラー、講師の浅野恵美子先生に助言を頂きました。いちごえ保育園は、8月27日(土)都ホテルで開催された沖縄県私立保育園連盟研究会にて発表しました。

みどり保育園は、「生きにくさ・育てにくさを感じる親子の支援」～なんくる家の活動を通して見えてきた、私たちが大切にしてきたこと～をテーマに、支援センターの職員が園内の子どもたちや保護者とのいくつかの橋渡し的役割をする関わりの中での事例について取り上げた研究発表をしました。みどり保育園は、平成29年1月の沖縄県保育協議会研究大会にて発表予定です。

9月28日(水)～29日(木)には、「沖縄の自然と文化に触れ、沖縄の素晴らしさを再確認し、次世代の子ども達に伝えていく」という趣旨で、久米島の3か園の保育園との交流及び情報交換をし、那覇ブロックとしての絆を深め、久米島町行政説明による久米島の待機児童解消、保育士不足の現状と課題を知ることができました。



久米島での交流会の様子

★南部ブロック ブロック長 屋良 景俊

南部ブロックでは、去った平成28年6月25日(土)に大里農村改善センターにおいて、助言者の廣瀬真紀子先生(沖縄女子短期大学、児童教育学科准教授)を招いて、第28回園内研究発表会を開催しました。233名の研修参加者の前でやえせ北保育園による「施設完結型ではない、つながる支援を目指して」をテーマに入園前から卒園後のつながりが特別支援保育を支えるとして保育士の孤立感、専門性の理解、共通理解等、アンケートを取り、保育士、地域、家庭、就学へのつなぎ等、それぞれを大切に丁寧に関わり続ける事の大切さがしっかりと伝わる良い発表でした。知念あさひ保育園は「産休明け保育を実践して」をテーマに誰もが安心して子どもを産み育て働き続けられるように、また子ども達がぐっすり眠り、おいしく食べ、すっきりと出し、生き生きと遊ぶ環境を作り、母体保護、母子愛着、乳幼児突然死症候群、感染症など行き届いた配慮に心しました。2ヶ園共に堂々と、内容も素晴らしい発表でした。

最後に、行事等でご多忙の中、職員を準備係りとして派遣して頂いた会員の皆様、誠にありがとうございました。

★先島ブロック

ブロック長 與那覇 高枝

平成29年度4月から社会福祉法改正の実施に備え、先島ブロック園長会では6月27日に宮古島市にて園長研修を開催。法改正の注意点やその他の情報交換をしました。宮古島市法人保育園連盟の今年度目標を「保育士確保」とテーマを決めておりました。

先島園長会において石垣市独自の渡航費助成があることを知り、宮古島市も早々に保育士確保の為の渡航費助成を市長に要請しましたところ、9月の補正予算に決定。平成28年10月から実施されることとなり、12月現在3人の保育士に適用されました。又、保育士支援センター、宮古島市児童家庭課、法人園長会と連携を取り、「保育士確保」の為の「保育士ツアーセミナー」も12月14、15日に実施されます。又、保育士養成を宮古島市で実施したいとして協議中であります。深刻な離島の保育士不足解消に努めており、離島ならではのハンディをどうするか話し合いの中から見出そうと活動しています。又、1月14日に開催される宮古地区における園内研究発表会では、心愛保育園が「みんな違ってみんな良い～居心地の良い保育園を目指して～」をテーマに発表します。平田美紀先生(沖縄女子短期大学)に助言を頂き、保育の質向上に向けて取り組んでいきたいと思います。



第36回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議おきなわ大会を終えて

沖縄県私立保育園連盟青年会議 会長 岸本功也

今大会ではテーマを『黄金ん子～子どもの笑顔が未来をつくる～』として、ここ沖縄の地で、「子どもが笑顔で育つそのために今私たちがすべきことは何か」を、全国各地で実践し、花開く事をめざし、講演やシンポジウム、また分科会では新たな企画にも取り組みました。

大会会場である那覇ロワジールホテルに475名（内375名県外）の参加者が集い、保育士演劇集団 新風（ミカジ）がオープニングを飾り、厚生労働省 企画均等・児童家庭局保育課保育指導専門官 馬場 耕一郎氏から行政説明が行われ、初日がスタートしました。

ここで、6つの分科会を簡単に紹介させて頂きます。

第1 分科会 「生きる力」の強い子を育てる

～人生を切り拓く「たくましさ」を伸ばすために～

講師：天外伺朗様（フロインスティュート代表、ホロビック・ネットワーク代表）

子どもの姿をどうとらえ、どう接するかを中心とし、子どもに関わる私達の心を見つめ直すこと、経営者として考えていかなければならない事などを伝えて頂きました。

第2 分科会 「保育者が笑顔で輝ける職場環境づくり」

講師：大山美智代様（オーエンド・オーコミュニケーション代表）

職場での問題は、コミュニケーションから起きている事が多く、それは理解して行動する事で明日からの保育の在り方がかわってくるといった内容であり、グループ討議も交え、具体的なコミュニケーション例を示していただきました。参加者一同、活発に意見が飛び交う熱気溢れる分科会となりました。

第3 分科会 「郷土文化の保育教材」

～子ども達の笑顔あふれるエイサー～

講師：山城真記子様（沖縄キリスト教短期大学教授）

沖縄芸能パフォーマー琉星太鼓の皆様のエイサー指導の下、参加者全体で一体感ある演奏を体験していく中で、伝統文化を子どもたちに伝えていく大切さを学ぶことができました。

第4 分科会 「クレームをプラスに変える法則」～日々の保育を振り返ってみよう～

講師：脇貴志様（株式会社アイギス代表取締役）

保育園にとってクレームとは何なのか、保育所の目線から考え、深く理解できる話をいただきました。クレームを克服すれば全てがプラスになるという事を確認し合い、クレームは我々を成長させる糧だと思って改善していくべきだと理解する事が出来たのではないでしょうか。

第5 分科会 「笑顔あふれる保育園作り」～明日を楽しみにする環境作り～

沖縄県私立保育園連盟青年会議

我々が独自に組み立てた分科会で、架空の保育園をグループで作り、「保育園運営」という大きなテーマを基にし、参加者全員が課題に真剣に取り組み、意見を出し合いながらも、互いを尊重し合って進められました。時間が足りないと感じるほど、有意義な分科会となりました。

第6 分科会 フィールドワーク「平和学習」～沖縄で「ガマ」から未来を考える～

南城市玉城（アブチラガマ）

南城市玉城（アブチラガマ）では、71年前に実際に起きた戦争のつめ痕の残る糸数壕（南城市玉城）を訪れました。壕ガイドの説明を受けながら戦争の追体験をし、戦争の恐ろしさや醜さ、命の尊さを学び、「自分で見て・手で触れて・心で感じて・体で表現して・言葉で伝える」事の大切さを考えさせられました。ありのままを伝えることの大切さ、大人が今やるべきことは何かを考える分科会となりました。各県の先生方が今回感じた思いを持ち帰り、平和学習の取組みのきっかけになればと願います。

最終日の記念講演では、歌手の古謝美佐子氏の子や孫を思う心、平和を愛する心についての思いを語りと歌声で表現していただき、人の心を癒す「ゆらぎ」をもつその素晴らしい歌声に会場の誰もが涙し、参加者の心を捉えて離しませんでした。

おきなわ大会終了後、大会についての感想やお褒めの言葉を多く頂きました。実行委員一同、心から感謝申し上げます。

第36回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議おきなわ大会にご支援いただいた全ての方々に感謝致します。この大会の成功は、これまで関わって下さった多くの方々のご理解とご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



キリスト教短期大学との連絡会

2017年1月12日(木)キリスト教短期大学にて、「2016年度 保育者養成等に関する連絡会」が行われました。私保連から長嶺久美子副会長はじめ、各部長、各ブロック長の9名、キリスト教短期大学からは友利廣学長以下、保育科科長、保育科、キャリア支援課の先生方8名が参加されました。

友利学長の冒頭の挨拶の中で、『初等、普通教育を木に例えると、就学前は根っこ部分。根っこがしっかりとしていないと結実もない。』と藤岡佐規子先生(光沢寺第二保育園園長)の言葉を紹介。「沖縄戦から学んだ、平和を尊ぶ精神の扱い手である幼少期の教育はその後の初等、中等、高等教育にも繋がっていくものである。そのためにも幼少期の教育はとても大切である。現場感覚と生き生きさを失わず、私保連とも分かちあいながら、学生の育成に取り組んでいきたい。』とのご挨拶がありました。

続けて長嶺久美子副会長より「私保連は、12月に会長交代を行いました。「保育の声が届かない」「子どもの声が届かない」このことを共に考えようと「保育を考える研修会」を開催。その際は、場所の提供や照屋建太先生のご参加など、ご理解とご協力に感謝致します」と挨拶がありました。

さらに、「学生の勉強する時間が1300時間、加えて実習に費やす200時間となるなど、保育者はやはり専門職であると実感。どうすれば生き生きとやりがいを感じて保育ができるのか、今、深刻な保育士不足をどう考えていいけばよいのか、ぜひ教えていただきたい」とのお話しがありました。

短大側から、実習生が欠席する場合は、事前に報告をして欲しいこと、実習日誌のパソコン入力の許可などの要望が出されました。

又、実習先では様々な保育方針、園の特徴、独自性等も理解し、プロの保育士としてのクオリティーを保つこと、保育理念を学ぶ姿勢を持つことなどを学生にしっかりと伝えて実習に臨んでもらっているとのお話しがありました。

キャリア支援課からは、学生の中には、卒業後、奨学金を返済することを優先するために他業種への就職を決める傾向があること、又、今年度の就職内定は3割~5割程度であること、出身地に近い場所での就職を希望する学生が多いが、県外の求人が年度初めの5月には出揃っている状況があり、その情報を先に見る学生が多い。しかし県外の就職は全体の5~6%にとどまっていることなどのお話しがありました。又、就職後、人間関係や仕事の面で悩み、離職する保育士のための相談窓口等はあるかの問い合わせには、短大側(先生)に個人的にメールで連絡があることや、2010、2011年から卒業生を対象に現状報告や伝え合いの時間を設けるなどの取り組みを学科として行っているとのお話しがありました。

私保連としても、それぞれの保育園が特色をアピールし、ボランティアなどで潜在的保育士が気軽に訪れることができるような取り組みをしていかなければならない、心を育てる保育園こそが保育士として素晴らしい職場であること、保育士になった喜びを感じ、誇りを持って仕事をできるような取り組みをしていかなければならないとの意見が出されました。

限られた時間の中で、両方共に活発に意見交換を行うことができ、短大側も私保連側も実習生を大事に育てていきましょうと確認し合いました。(広報部:嘉陽)



子どものつぶやき

★泥山のてっぺん…3歳児「みんな～くろざーたー(黒砂糖)ぱーていーするよー」「わ~い！！」泥団子でたくさんのつぶつぶを作つてもう一言「いっぱいがんばったから、くろざーたーときんめだるあげるからねー」自園の一番のご褒美が黒砂糖なので子ども達も大好きな様子が伝わってきます。

★4歳児 園庭で運動会で披露するダンスを練習中。片膝立ちでポーズを取る際に、膝にくっつく砂が痛かったのか、側に落ちている小さな葉っぱを密かに膝の下に敷いているAちゃん。すごいアイデア！一生懸命、膝の大きさに合う葉っぱを探す仕草が可愛かったです。

★芋ほり遠足の一言。なかなか土の中から現れない芋に「もう！おいもは～？」と2歳児。担任が芋を見つけてあげました。でも、掘っても掘っても出てこない芋に呆れた様子で一言「もう！うめちゃおう！」

沖私保連の動き

10月

- 20日(木) 県予算説明会打ち合わせ
當間会長他3名
- 26日(水) 県保育予算等説明会
- 27日(木) 青年会議おきなわ大会
- 28日(金) //

12月

- 1日(木) 第11回緊急理事会
- 5日(月) 保育シンポジウム打ち合わせ
パネリスト4名 副会長他3名
- 7日(水) 第12回緊急理事会
- 12日(月) 総務部会
- 13日(火) 第13回理事会
- 14日(水) 全私保連予対委員会 田仲予対部長
- 18日(日) 沖縄の保育を考える研修会
- 22日(木) 広報部会
- 26日(月) 第61回臨時総会

11月

- 1日(火) 全国事業部長会(神戸)岸本事業部長
- 5日(土) 各部・ブロック役員研修会・理事会
- 7日(月) 予対部会
- 8日(火) 第10回理事会
- 14日(月) 研修部会
- 15日(火) 拡大三役会
- 18日(金) 県へ要請 當間会長他3名
- 21日(月) 初任園長研修会
- 29日(火) 保協委員会
- 30日(水) 九州私保連第3回会長会(福岡)

1月

- 4日(水) 仕事始め
- 10日(火) 第14回理事会
平成29年新年交流会
- 12日(木) 『保育者養成等に関する連絡会』
キリスト教学院大学
- 16日(月) 研修部会
- 21日(土) 保育祈念会(理事・幹事有志)
- 30日(月) 広報部会

編集後記

○131号の発行と共に、広報部長一年目が終わろうとしている。寄稿して下さった先生方の想いをしっかりと伝えることができただろうか、保育にまつわる諸問題、課題等が山積する中、私保連だよりを通じてどう伝えていけばよいのかと試行錯誤の一年であった。先輩園長方から多くの学びを得ながら、2017年度も会員の皆様に愛される紙面づくりに取り組みたい。

(嘉陽理子)

○昨年は「公立保育所全廃」へ問題提議をし続ける1年でした。その節は、会員の皆様に署名活動へご協力頂きました事、この場を借り感謝申し上げます。近隣市町村のみならず、北部や離島から届く署名には本当に支えられました。政治的にどの様な状況になろうとも、私たちの「子どもの最善の利益」を守る訴えは変わらない。今年も引き続き頑張っていきましょう。

(やえせ北保育園：川武)

○みんなで和気アイアイ。楽しい編集作業！おいしいお菓子付きとあり気分もルンルンです。いっぱい勉強させてもらっています。

(麗ピヨン)

○原稿の校正作業にとまどいながら読ませてもらいました。来年も会員の皆さんに私保連だよりを楽しんで読めるように頑張ります。

(ゆーみん)

○今年度最後の私保連だよりは内容も盛り沢山となっています。法改正への対応など、28年度はいつにも増して多忙な年となりました。広報部の皆さんから多くを学びました。ありがとうございました。

(宮里)

○取材に行ったり、〆切までに原稿を間に合わせたりと大変な作業もありますが、編集作業は部員みんなでゆったりと和やかに進めていく広報部会。来年度もこのメンバーでのんびりした雰囲気で取り組めたらいいなあ。

(モリモリ)

○久々に部会の校正作業に参加しました。校正は難しいと改めて感じました。課題を残したままで心残りの一年でした。今年はトリ年。「取り込む」というよい年だそうです。期待したいです。

(N)



ペタルーナの新しい試みが始まりました!!



アロマで 保育士さんを癒し隊

保育士の皆さんのが毎日笑顔でお仕事できるように
ペタルーナは応援します。

その1 出張ワークショップ

保育園などの子育て施設は講師料無料・材料費のみで県内（本島）出張いたします。

その2 保育園割引

園で登録していただくと特別価格で商品をご購入いただけます。
※園登録はウェブから登録をお願いします。

その3 寄付

ペタルーナでは売り上げの一部を沖縄県私立保育園連盟に寄付しています。

その4 園内での香り活用支援

初めてのアロマ活用をサポートいたします。2ヶ月間の無料お試しも承っております。

詳細につきましてはインターネットで「ペタルーナ」を検索、もしくは下記QRコードを読み取りご確認下さい。ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください。

電話番号 098-861-5166（ペタルーナ新都心本店）まで。





《園児総合保障制度》

☆キッズガード☆

(商品名：こども総合保険)

健やかなお子様の成長のために…

☆その他、施設長・職員の皆さまへの
福利厚生の保険も扱っています。

お問い合わせは下記連絡先までどうぞ。

引受保険会社

AIU 損害保険株式会社沖縄支店

〒900-0015
那覇市久茂地1-12-12 ニッセイ那覇センタービル3F
TEL: 098-862-2174 FAX: 098-863-0960

保育園厨房機器・厨房用品全般
食器洗浄機・食器消毒保管庫等(株)盛厨房設備
リサイクル厨房館

本店 〒901-2122 浦添市勢理客2-15-1
TEL: (098) 878-3182 FAX: (098) 874-2405
山内店 〒904-0035 沖縄市南桃原4-30-5
TEL: (098) 930-1010 FAX: (098) 930-0033

ひかりのくに株式会社 沖縄営業所

TEL 098-889-4339 FAX 889-1808

✉ okinawa@hikarinokuni.co.jp

ひかりのくに

取扱: 幼児の月刊絵本・教材・楽器・積木
園児服・什器・備品・園庭遊具 他

RICOH

リコージャパン株式会社

沖縄支社: 那覇市寄宮1-3-37 NTT那覇ビル1F
支社長 白土和夫

園および
園児を
さまざまなリスクから
サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である
(有)ゼンボでは、園経営はもちろんのこと、
園児をとりまくり園に関する各種保険を取り扱っております。

【園賠償責任保険】「園児団体傷害保険」
〔学校契約団体傷害特約付普通傷害保険〕
「特別保育事業賠償責任保険」など、
園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

【園児総合保障
共済制度】
園児を24時間補償する
共済制度(こども総合保険)です。
団体契約による割引の適用で割安な掛け金で
補償を確実することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定 東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンボ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)
東京海上日動火災保険株式会社
担当課: 公務第二部 文教公務室 TEL: 03-3515-4134

このご案内は「無殺菌責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害特約付普通傷害保険
共済制度」と「託児合宿施設の必要について」を紹介したもので、保険の内容は本保険契約のパン
フレットをご覧ください。詳細は契約者である公社(有)ゼンボ(全国私立保育園連盟)にお渡しす
る保険料金になりますが、ご不明点がございましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

飛行船

劇団 飛行船

<http://www.hikosen.co.jp>

■〒530-0047 大阪市北区西天満4-7-3-4F Tel 06-6363-3769

未来の子供たちへ
絵本が育てる子供の心

チャイルドブック
明日の園環境づくりを応援します

株式会社 チャイルド本社
沖縄営業所

〒901-0203 沖縄県豊見城市長堂144-2
(TEL) 098-856-8630 / (FAX) 098-856-8635

オキシム